自然と文化科　共通講座（午前）班別活動（午後）

日時	2024 年６月７日（金）10：00～15：00	担　当　者
場所	午前：共通講座　福島区民センター 午後：班別活動　各所	文：日野裕一 写真：齊藤ちづみ
備考	参加者数　１班 20 名　２班 19 名　３班 19 名　４班 14 名　　合計 72 名	

午前 10:00～12:00　**共通講座**

１．テーマ：「世界の食糧事情と飢餓問題について」

２．講演者：日本国際飢餓対策機構　チャイルドサポーター事務局　安達燎平先生

　2013 年大学生の時にフィリピンの台風ヨランダの復興支援で現地を訪問してから活動を開始

３．講演要旨：

・飢餓状態とは、食べ物がないのではなく、食べ物もない状態である。仕事など生活基盤もなく、人間の尊厳が守れない状態である。

・貧しい国に生まれたから飢餓は仕方がないことか。私たち一人一人が何ができるのか考えてほしい。日本だけでなく世界のことを考えてほしい。

・世界の飢餓人口（2021 年）は８億 2800 万人で、１年で 4600 万人増加している。

・世界では穀物だけで年間 26 億トン生産されており、世界人口の約７７億人が十分に食べられる。

・日本の食品ロス（食べられるのに捨てられているもの）は 522 万トンで、世界の食べもの支援（420 万トン）より多い。この食品ロスをお金に換算すると約 11 兆円。

・飢餓は食料の量の問題ではない。①お金、仕事がなくて食べ物にアクセスできない②政府、民間団体の無対策③メディアが正しく報じない　などの原因があり、コミュニティの収入を安定させ、自立を促すことが大切である。

・創設者のラリーワード博士は、「人は一人一人死んでいく。それなら、私たちも一人ずつ助けていけばいいではないか」と述べている。何もしないよりは一人でも助けていきたい。

・ウクライナ難民に対しても現地での食料支援や避難者の日本への受け入れ活動をやっている。

・配布されたパンフレット（ハンガーゼロニュース６月号）で活動状況がわかるので、サポートしていただける人は申し込んでほしい。

４．所感；世界の飢餓人口が驚くほど多いことに驚いた。民間の NGO や国連など様々な機関が援助を行っているが、まだまだ十分なレベルとは言い難いようである。食品ロスの低減を含めて、個人として何ができるか考えてみる必要があると感じた。

３班　上坂部西公園

午後　13:00～15:00　**班別活動**

１班：石畳路地の哀愁に誘われて大和田街道をゆく　２ 班；野田の「ななとこまいり」と路地巡り　３班：上坂部西公園で植物観察

４班：大阪市下水道科学館見学